
令和4年度
みえの防災活動事例集
～防災の日常化をめざして～

三重県防災対策部
防災企画・地域支援課

はじめに

今年は甚大な被害をもたらした東日本大震災から10年の節目の年です。現在も含め近い将来、三重県に大きな被害をもたらすことが懸念される南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率は「70～80%」であり、大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震のような内陸直下型地震もいつどこで発生してもおかしくない状況です。また、令和元年台風第19号や令和2年7月豪雨では、各地に甚大な被害が発生するなど、風水害も頻発しています。このような状況の中で、私たちは、「いつか来る」災害である地震・津波や「いつも来る」災害である風水害など、あらゆる災害への「備え」を着実に進める必要があります。

そのためには、自らの安全は自ら守る「自助」、自らの地域は住民の皆さんで守る「共助」、行政及び防災関係機関が担う「公助」の理念に基づいて、県民の皆さん、自主防災組織、事業者、市町、県、防災関係機関等がそれぞれの役割を果たしていくことが重要です。

そして、災害への備えが非日常的な特別な活動ではなく、日々の業務や生活と一体となった当たり前の活動となること、すなわち「防災の日常化」を意識し、日頃から災害に対する十分な備えを進めていく必要があります。

この事例集では、「みえ地震・津波対策の日シンポジウム」において表彰された、令和4年度「みえの防災大賞」受賞団体の特色ある自主的な防災活動を紹介しています。これらの活動を参考に、それぞれの地域に合った防災活動に取り組み、皆で「災害に強い三重づくり」を進めましょう。

令和5年1月 三重県防災対策部

「みえの防災大賞」とは

「みえの防災大賞」は、県内各地で自主的な防災活動に取り組んでいる団体を表彰し、これらの活動を県民の皆さんに広く知っていただくことにより、災害に強い三重づくりを進めることを目的として、平成18年度から実施しているものです。

令和4年度は、7団体から応募があり、選考の結果、「みえの防災大賞」1団体、「みえの防災特別賞」1団体、「みえの防災奨励賞」2団体を決定し、表彰しました。



目 次

みえの防災大賞

- ・ かぶしきがいしゃやましたぐみ
株式会社山下組 1
(志摩市)

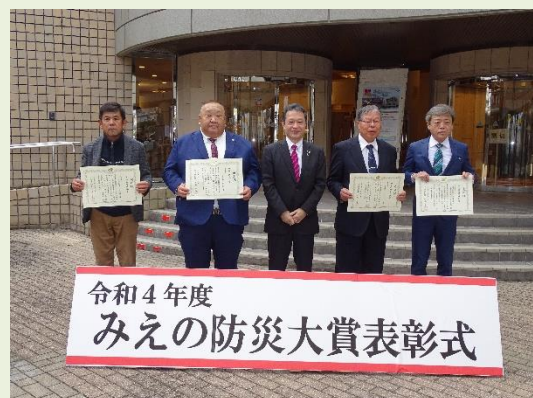
みえの防災特別賞

- ・ たまきちようほうさい
玉城町防災ボランティア 2
(玉城町)

みえの防災奨励賞（50音順）

- ・ こうのぎ ち く じしゅほうさいそしき
神木地区自主防災組織 3
(御浜町)
- ・ み え けんりつほくせいこうとうがっこう とみだ ち く れんごうじしゅほうさいたい
三重県立北星高等学校と富田地区連合自主防災隊 4
(四日市市)

令和5年1月28日（土）に川越町あいあいホールで開催された「みえ地震・津波対策の日シンポジウム」において、令和4年度「みえの防災大賞」表彰式が行われました。





「株式会社山下組」は、志摩市内でも特に南海トラフ地震による深刻な津波被害が想定される和具地区に事業所を構える建設業者です。これまでに、建設業者としての事業活動とは別に、地域住民の避難場所の確保や地元自治会と協力した避難路整備等の活動を通じて、地域の防災力向上に貢献してきました。

平成29年度から事務所屋上を津波避難施設として開放し、事務所3階についても収容人数20人の災害時避難施設として改修を行い、防災グッズを備えた避難施設を整備するとともに、地元の和具自治会と協力し、地域の危険箇所についてのパトロールや危険箇所改善などのボランティア活動、所有するドローンを利用した被災者発見訓練などに継続的に取り組んでいます。

また、令和元年度「みえの防災奨励賞」、令和3年度「みえの防災特別賞」受賞後も、小中学生のための避難道路整備ボランティアや実際の災害を想定した防災無線訓練を実施するとともに、経営するガソリンスタンドを改修し、住民拠点SS指定を受けることにより災害時の地域の燃料供給体制整備に取り組んでいます。

さらに、令和4年度には、「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」が開催する「企業等防災研修」において、同社社長が講演の講師を務め、防災施設の見学や災害時ネットワーク無線のシミュレーションなどの取組紹介を行うなど、県内企業の防災・減災対策をリードする存在となっています。

こうした同社の取組は、地域と企業が連携して防災・減災対策を進めるにあたっての先進的なモデルとなるものです。



(株) 山下組 社屋（遠景）



(株) 山下組 社屋（近景）



事務所3階 災害時避難施設



事務所屋上に備え付けの水タンク



自社サーバーを設置



地元河川の清掃活動



令和4年度みえの防災特別賞

たまきちょうぼうさい

玉城町防災ボランティア

玉城町

「玉城町防災ボランティア」は、東日本大震災や紀伊半島大水害への被災地支援をきっかけに玉城町でも災害ボランティアが必要との声があがり、平成23年に組織を結成しました。結成後、行政と連携した防災訓練や地元小学校での防災体験教室、住民を対象とした防災キャンプ、自主防災組織とともに行うタウンウォッチングなど、自発的に防災・減災に関わる活動の実施を続けています。また、平成29年10月に発生した台風21号による災害では、災害ボランティアセンターを支援し、ボランティア活動を行いました。

令和元年度には他の地域の活動も参考にすることで、令和2年度に玉城町版HUG（避難所運営ゲーム）を製作し、普及を進めています。また、子どもから高齢者まで理解できる避難所行動マニュアルや玉城町在住の外国人に避難所について理解してもらうためのマニュアルといった、災害時に活用できる7つのマニュアルを制作しました。

結成後、長きにわたり災害ボランティア活動のみならず、子どもを含め地域住民の防災意識向上に大きく貢献しており、玉城町版HUGや災害時のマニュアル制作など独自の取組を行っている点、さらに令和3年度の「みえの防災奨励賞」受賞後も、地元小中学校での防災体験教室などの取組を継続して実施している点は、他地域でも参考となるものです。



防災体験

（ポリ袋炊飯）



（防災倉庫見学）



三重大学川口准教授による防災講座



玉城町版HUG



中学校の先生方とHUG



災害ボランティア研修
（ブルーシートの張り方）



令和4年度みえの防災奨励賞

こうのぎ ち く じ し ゅ ぼうさいそし き
神木地区自主防災組織

御浜町

「神木地区自主防災組織」は、平成27年に御浜町神木地区の9つの自主防災組織の連合体として結成されました。これまでに、「避難所運営マニュアルの作成」、「災害時避難行動要支援者対策」、「家具固定の推進」等に取り組んできました。

「災害時避難行動要支援者対策」としては、同団体の複数のメンバーで避難行動要支援者名簿を精査し、本当に支援が必要な方や、名簿記載が無い方で支援を必要としている方の洗い出しを行い、「生きた名簿」として整理したうえで個別支援計画の作成を行っています。

また、「家具固定の推進」においては、地区独自の補助制度を創設し、役員が実際に住宅を訪問して希望の聞き取りや家具固定器具の設置を行い、地域の家具固定を推進しています。これらの取組は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待ができるものです。



地区の避難訓練実施時に家具固定の重要性を説明



避難所運営マニュアルの作成



総合防災訓練での住民レスキュー訓練



「避難行動要支援者名簿」の精査



家具固定器具の取付



令和4年度みえの防災奨励賞

み え けんりつほくせいこうとうがっこう
三重県立北星高等学校と

とみだち くれんこうじしゅ ぼうさいたい
富田地区連合自主防災隊

四日市市

三重県立北星高等学校では、例年9月頃に地域と連携した防災学習を実施しており、令和4年度には、四日市市富田地区の防災隊と合同二次避難訓練を行いました。

これまでに、地震防災の有識者からのヒアリング等も行い、校外の高台である北勢バイパス近くの公園を二次避難先として設定し、避難目標まで誘導するイメージ動画の作成を行いました。

高校生が「率先避難者」として、避難経路沿いにいる高齢者や介護を必要とする住民に対して声掛けをして避難誘導ができる姿をめざして今後の活動も計画しており、こうした取組は他地域でも参考になるものであり、これからの活動の発展に期待ができるものです。



二次避難先のバイパス道路と
近隣公園への避難訓練について
説明する教員



コロナ禍での訓練の工夫として作成したイメージ動画
「目指せバイパス」(生徒にオンライン配信)
(CTYニュース画像から引用)



高校生が率先避難者として地域住民をリードする合同の二次避難訓練の実施はもちろん、避難経路にいる高齢者や介護の必要な住民に対して、高校生が声かけをして避難誘導できるような展開を計画

(CTYニュース画像から引用)



学校防災担当と地区防災
隊長との合同プレゼン